

(7) 泌尿器科

概要、特色

泌尿器科は、腎、尿管、膀胱といった尿路や、外陰部、陰茎、精巣といった生殖器を扱う外科系診療科である。成育医療センター泌尿器科(以下当科)は、小児病院からの柿澤至恕医長、大蔵病院からの大橋正和医員の2人体制で2002年3月1日に発足した。この1年間は、新しい施設、新しいスタッフ、電子カルテという新しい診療システムの下での「立ち上げ」の時期であった。

当科の特色としては、胎児期から、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期、生殖期に至る幅広い年齢の患者さんの泌尿器科疾患に対応することと、関連する診療科と緊密な連携を取りながらチーム医療を進めることである。この特色を踏まえ、小児病院で行われてきた小児泌尿器科診療、大蔵病院で行われてきた男性不妊診療を継続し発展させるという意気込みで当科は船出し、あっという間に1年が経過した。

診療活動

診療は、月 - 金の午前中に外来診療、月、水、金の午後に手術、火、木の午後に検査という週間予定で開始したが、午前の外来診療が伸びて、昼食抜きで手術室に向かうという日々が続いている。2002年4月 - 2003年2月に至る11ヶ月の延べ外来患者は3367名、延べ入院患者は1341名であった。

記念すべき当科手術第1例は、2002年4月15日に先天性副腎皮質過形成女児の膣口形成術であった。以後2003年3月31日までに、159例の手術が施行された。内訳は尿道下裂62例、停留精巣35例、陰嚢水腫17例、先天性副腎皮質過形成女児の膣口形成術7例、包茎5例などであり、男性不妊症手術としては、体外受精に供するための精巣内精子採取術3例、精管吻合術1例であった。また当科は、腎臓科を中心とする腎移植チームにも加わり、2例施行した血縁生体腎移植におけるドナー腎摘出術を施行した。

長年勤続してこられた柿澤先生が2003年3月で定年退官され、4月より名古屋第二日赤病院より新進の上岡克彦先生を新医長に迎える。胎児診療科より胎児期に発見された尿路異常、内分泌科より性分化異常、脳神経外科より二分脊椎症の尿路管理といった診療依頼が増加してきており、私ども泌尿器科医の役割が益々重要となってきたと、襟を正しているところである。

啓蒙活動

大橋正和 : 2003.02.15 二分脊椎症協会・医療講演会
「二分脊椎症患者さんの泌尿器合併症と排尿管理」
於 国立成育医療センター講堂



2003年3月20日、最終外来後に柿澤先生を囲んで